



- I. 決算の状況
  - II. 今期、来期のハイライト
  - III. 今後の展望
- 



中国料理  
**浜木綿**  
はまゆら

- I. 決算の状況
  - II. 今期、来期のハイライト
  - III. 今後の展望
- 



中国料理  
**浜木綿**  
はまゆら

# 決算の概況(2023/7期 実績)

## 損益計算書



単位：百万円

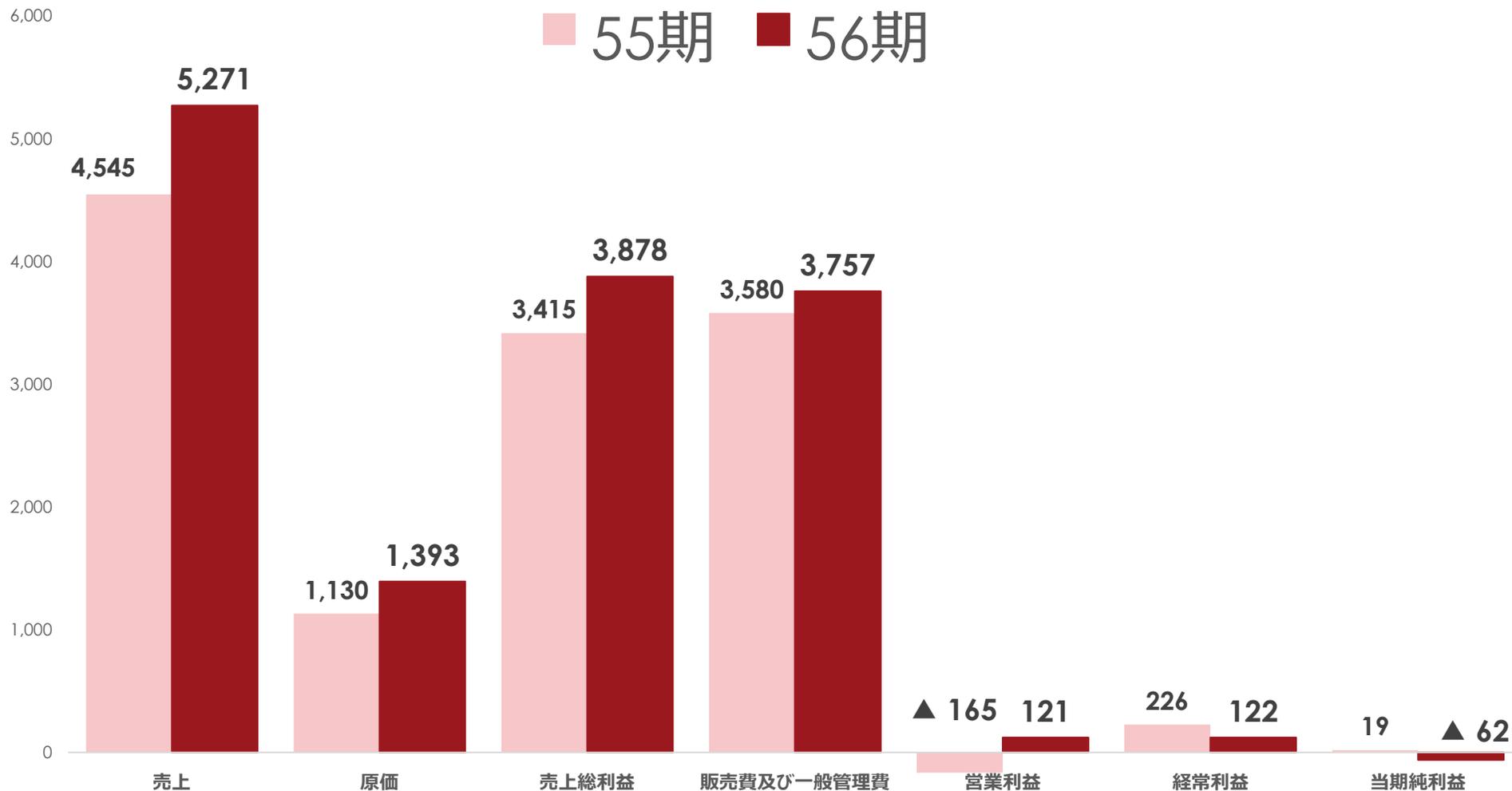
	2022年7月期		2023年7月期		前期比	
	実績	対売上比率%	実績	対売上比率%	増減値	増減率%
売上高	4,545	100.0	5,271	100.0	726	16.0
売上総利益	3,415	75.1	3,878	73.6	463	13.6
販売費及び一般管理費	3,580	78.8	3,757	71.3	176	4.9
営業利益	△165	—	121	2.3	286	—
経常利益	226	5.0	122	2.3	△104	△46.1
当期純利益	19	0.4	△62	—	△81	—
1株当たり当期純利益(円)	9.05	—	△29.03	—	—	—
自己資本比率(%)	33.3	—	36.7	—	—	—

- ・ 当事業年度の前半までは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けることとなるも、後半からは客足が徐々に回復した結果、売上高は、前期に比べて726百万円増加し2期連続で増収。
- ・ 原材料の高騰やエネルギーコストの上昇の影響を受けるもコストコントロールの結果、営業利益黒字確保。
- ・ 特別利益として 固定資産売却益28百万円、特別損失として減損損失172百万円など合計202百万円をそれぞれ計上。

# 2023年7月期ハイライト



単位：百万円

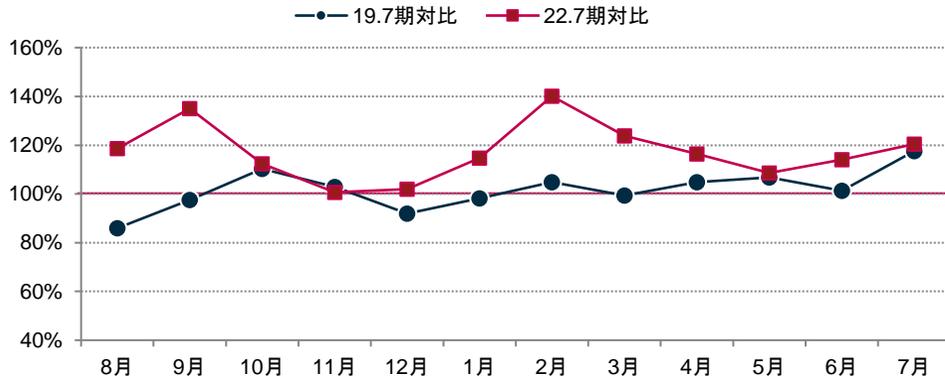


▲ 1,000

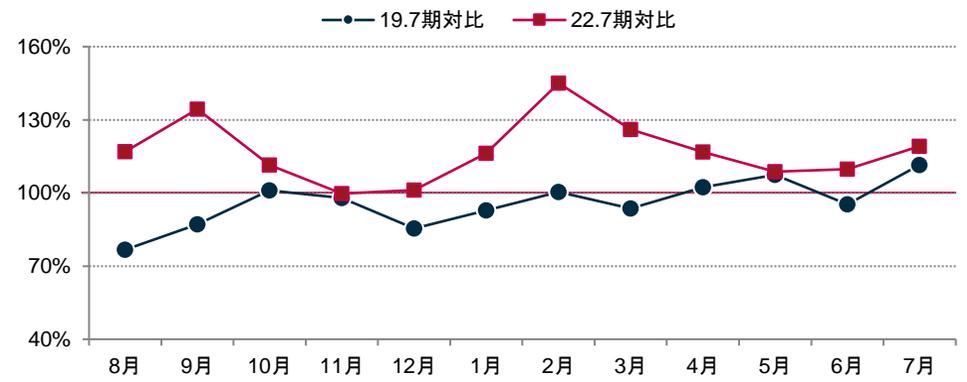
# 月次売上高ならびに客数の推移



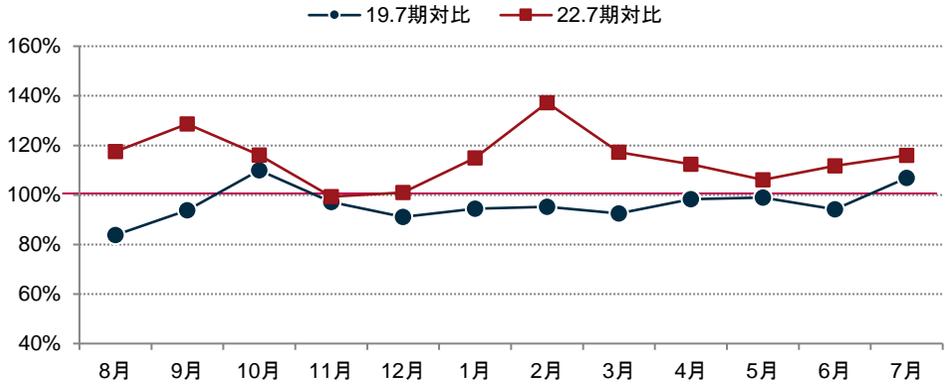
### 月次売上高(全店)



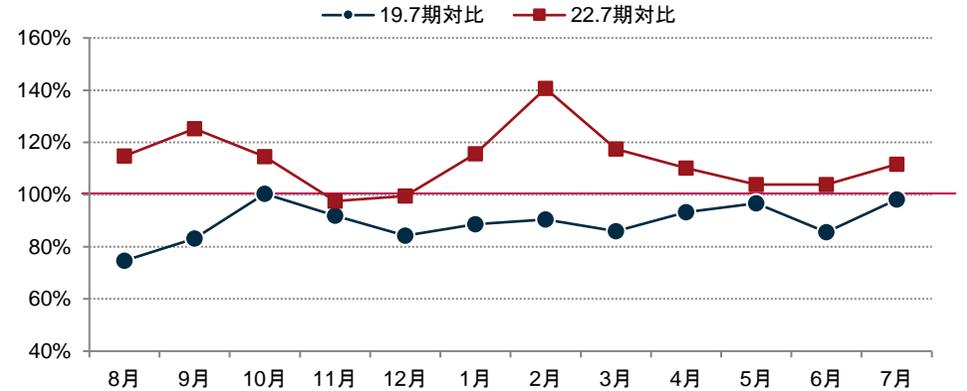
### 月次売上高(既存店)



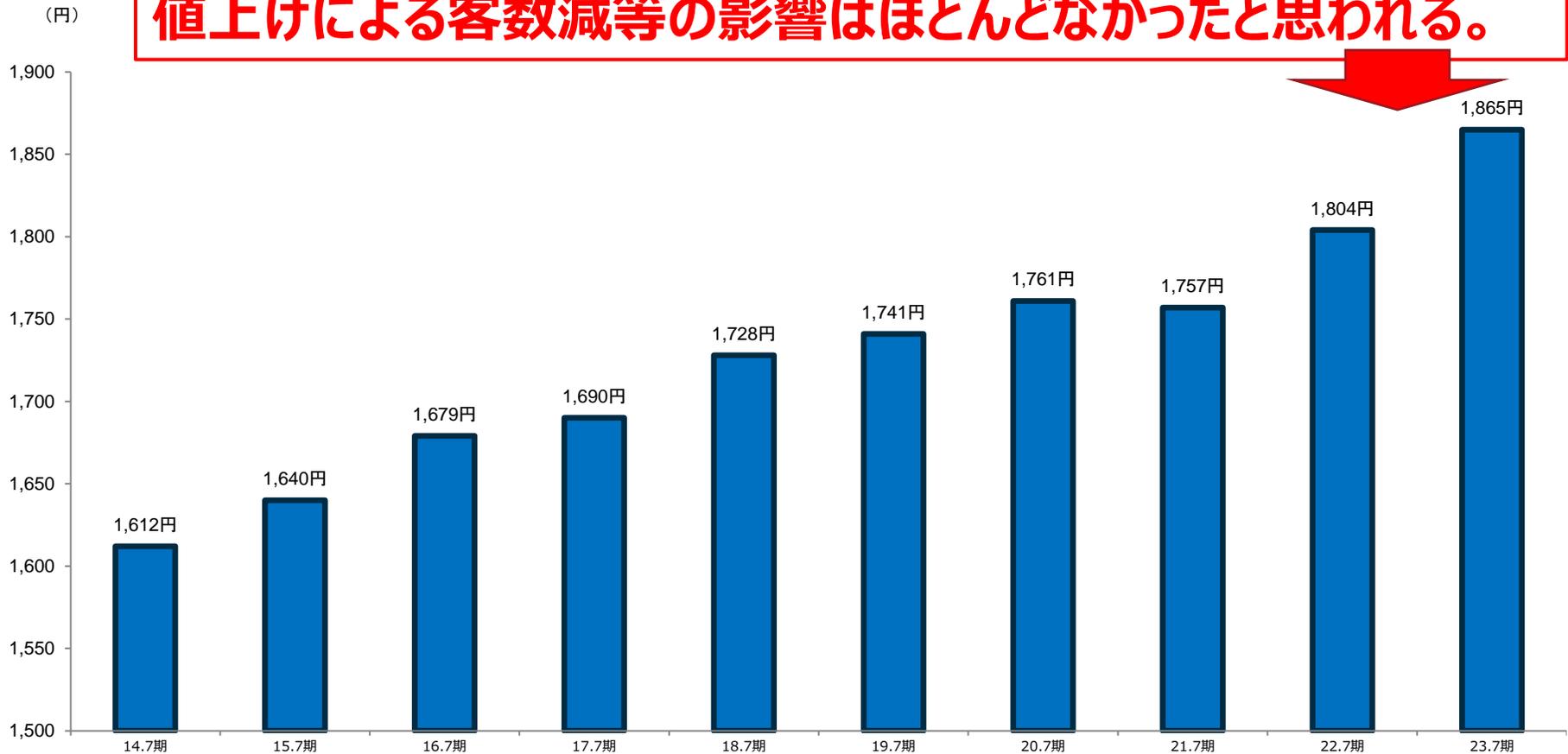
### 客数(全店)



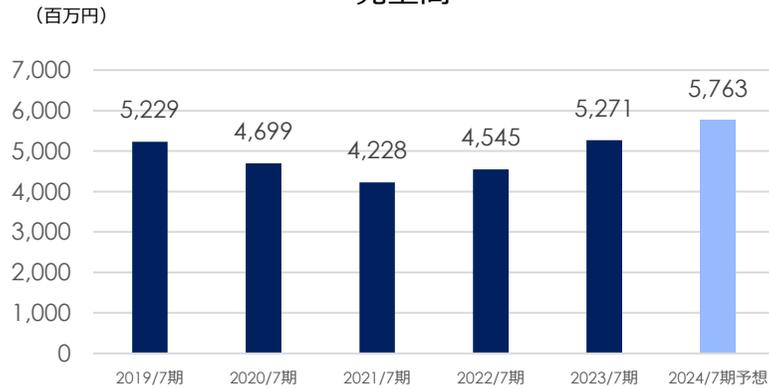
### 客数(既存店)



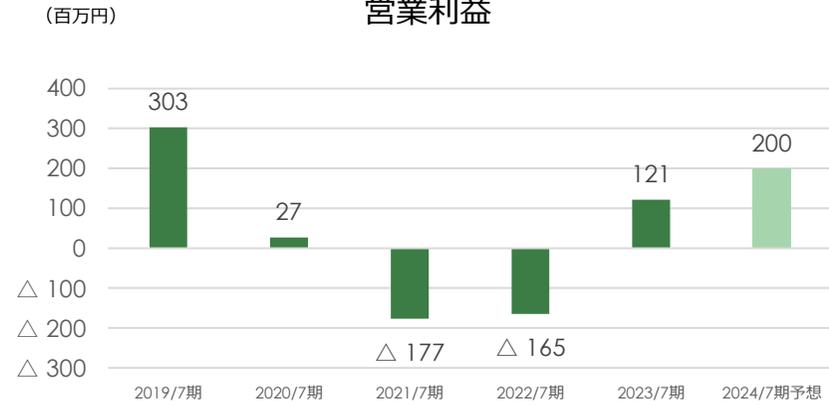
原材料費、水道光熱費等の高騰に対応するため  
段階的に値上げを実施したことで客単価がアップ。  
値上げによる客数減等の影響はほとんどなかったと思われる。



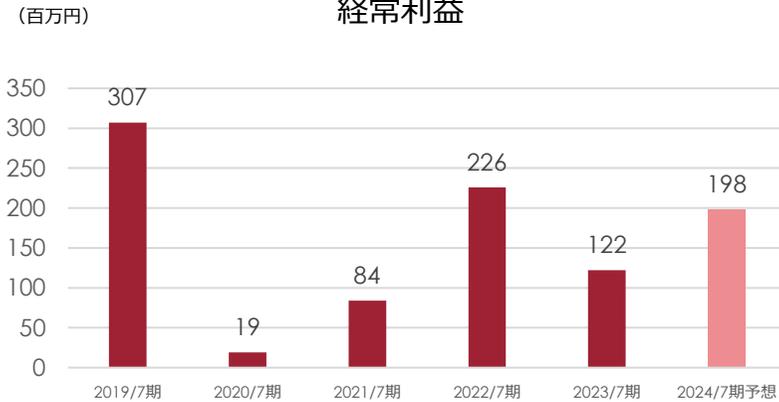
## 売上高



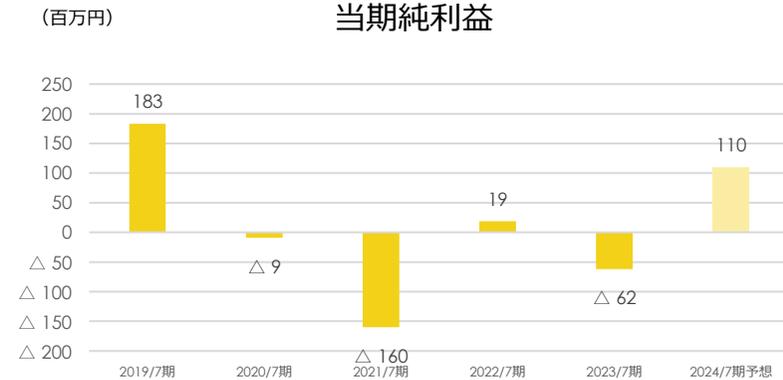
## 営業利益



## 経常利益



## 当期純利益



## 1株当たり当期純利益 (単位：円)

2019/7期	2020/7期	2021/7期	2022/7期	2023/7期	2024/7期予想
132.86	△4.57	△74.76	9.05	△29.03	51.04

2023年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。  
2019年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

# 決算の概況 (2023/7期決算 実績)

## 貸借対照表



単位：百万円

	2022年7月期		2023年7月期		前期比	
	実績	構成比%	実績	構成比%	増減値	増減率%
流動資産	1,615	36.1	1,395	36.2	△219	△13.6
固定資産	2,860	63.9	2,462	63.8	△397	△13.9
有形固定資産	2,201	49.2	1,794	46.5	△407	△18.5
無形固定資産	25	0.6	32	0.8	7	28.7
投資等	633	14.1	635	16.5	2	0.3
資産合計	4,475	100.0	3,857	100.0	△617	△13.8
流動負債	1,078	24.1	908	23.5	△170	△15.8
固定負債	1,906	42.6	1,534	39.8	△371	△19.5
負債合計	2,984	66.7	2,443	63.3	△541	△18.1
株主資本	1,494	33.4	1,418	36.8	△75	△5.1
評価・換算差額等	△2	-	△3	-	0	37.5
純資産合計	1,491	33.3	1,414	36.7	△76	△5.1
負債・純資産合計	4,475	100.0	3,857	100.0	△617	△13.8

# 決算の概況（2023/7期決算 実績）

## キャッシュ・フロー計算書



単位：百万円

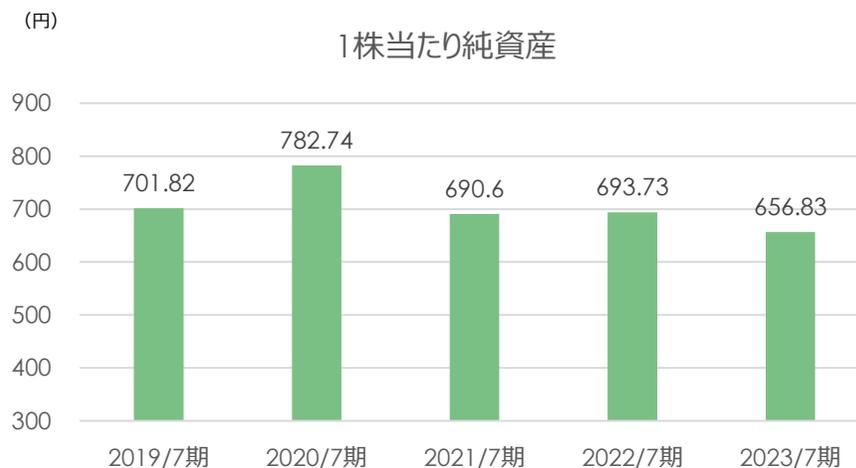
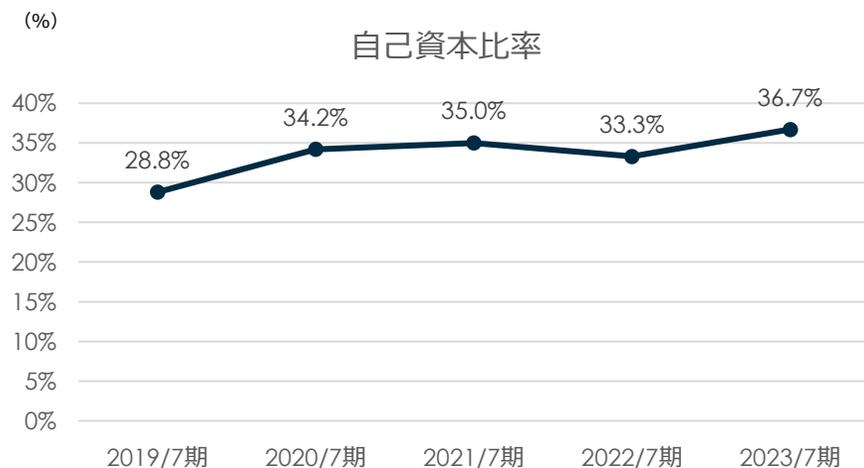
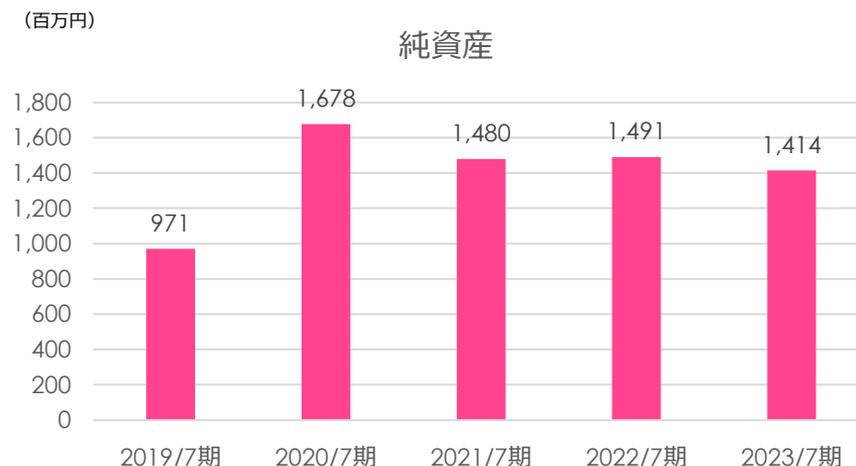
	2022年7月期	2023年7月期	前期比 増減値
営業活動によるキャッシュ・フロー	373	350	△22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△575	117	693
フリーキャッシュ・フロー	△202	467	670
財務活動によるキャッシュ・フロー	186	△668	△854
現金及び現金同等物の増減額	△15	△200	△184
現金及び現金同等物の期末残高	1,116	916	△200

・営業活動によるCF：前年同期比22百万円減。

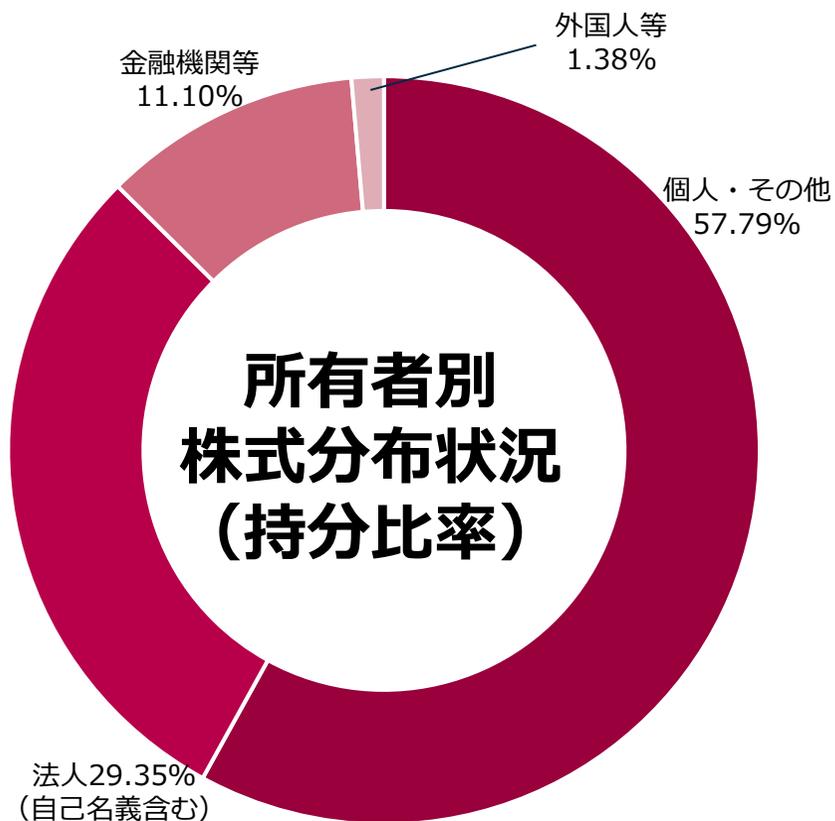
・投資活動によるCF：前年同期比6億93百万円増。有形固定資産の売却による収入3億89百万円。有形固定資産の取得による支出2億45百万円。

・財務活動によるCF：前年同期比8億54百万円減。長期借入金の返済による支出5億3百万円、社債の償還による支出1億円

・現金及び現金同等物の期末残高：前年同期比2億円減の9億16百万円。



2023年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。  
2019年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。



地域別分布状況			
	株主数 (名)	株式数 (株)	株式数比率 (%)
北海道	8	2,103	0.20
東北地方	10	5,411	0.50
関東地方	243	235,196	21.83
中部地方	1,463	760,020	70.54
近畿地方	281	52,739	4.89
中国地方	16	1,910	0.18
四国地方	10	2,812	0.26
九州地方	15	1,908	0.18
国外	12	15,401	1.43
合計	2,058	1,077,500	100

- I. 決算の状況
  - II. 今期、来期のハイライト
  - III. 今後の展望
- 



中国料理  
**浜木綿**  
はまゆら

## 新業態（中国食堂はまゆう）の展開について①

主力業態「**浜木綿※**」と同程度の店舗数を目指して  
「**中国食堂はまゆう**」の店舗展開を加速。

※31店舗（2023年7月31日時点）

**2**号店：2023年3月に**豊田店**をオープン。（浜木綿からの業態転換）

**3**号店：2023年5月に**図書館通店**をオープン。（桃李蹊からの業態転換）

➡ “**日常食マーケット**”のシェアアップ



「中国食堂はまゆう」の特徴：

低価格で気軽に立ち寄れる食堂スタイルの中国料理レストラン。気軽なちよい飲みやファミリー利用など、様々なシーンで利用可能。新町中華をコンセプトにしたカジュアルな店舗。

## 新業態（中国食堂はまゆう）の展開について②

**4**号店「野並店」を2023年9月22日に新規オープン。

「茶屋ヶ坂店」に続いて、名古屋市営地下鉄出口すぐの駅前立地。



### 店舗情報

**中国食堂はまゆう 野並店**  
愛知県名古屋市天白区野並3丁目413番地

ライブ感あふれるオープンキッチンとカウンター席を新設し、おひとりでも気軽に利用できる、カジュアルな雰囲気演出

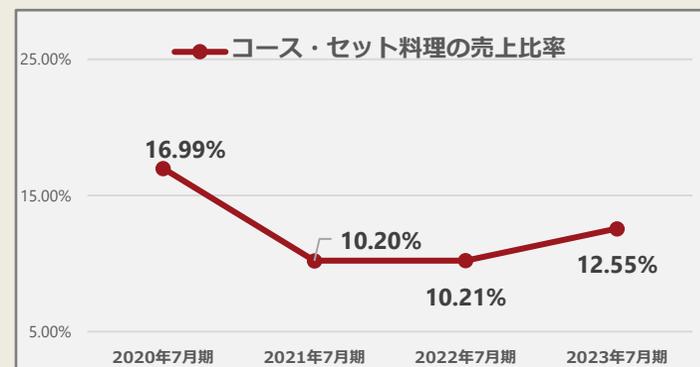
**新業態のノウハウを構築し、  
店舗展開の基礎を固める**

メイン業態である浜木綿の集客力向上を目的として、

「浜木綿 黒川店」を2023年9月15日にリニューアルオープン。

「浜木綿 春日井店」を2023年11月2日にリニューアルオープン。

57期下半期に浜木綿業態を1店舗新規出店予定。



ひとり客対策の強化とともに、

顧客ニーズに合わせた改装により用途の多様性に対応。

※カウンター席の設置、座敷席を座敷イス席に改装

# お持ち帰り専用冷凍餃子、冷凍肉まんじゅう販売拡大

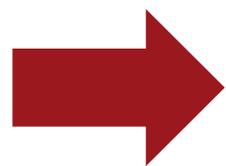


冷凍餃子1箱56ヶ ¥1,800(税込¥1,944)



こだわりの餃子の味を自宅でも気軽に味わえる持ち帰り専用の冷凍餃子を浜木綿3店舗から4店舗に、中国食堂はまゆう4店舗に販売店舗数を拡大。

新セントラルキッチンの稼働時期を2024年3月頃に予定。



店舗拡大を見据えた生産能力の強化と  
料理のクオリティの均一化及び品質向上が目標



セントラルキッチン工場予定地

# 2024年7月期の業績予想



(百万円)	2023年7月期 実績	2024年7月期 業績予想	増減
売上高	5,271	5,763	492
営業利益	121	200	79
経常利益	122	198	76
当期純利益	△62	110	172
1株当たり当期純利益 (円)	△29.03	51.45	80.48

## 目的

投資単位の水準を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上及び投資家層の更なる拡大を図ることを目的とする。

## 分割割合

普通株式 1 株につき 2 株の割合をもって分割

**1 株** → **2 株**

## 基準日

2023年7月31日

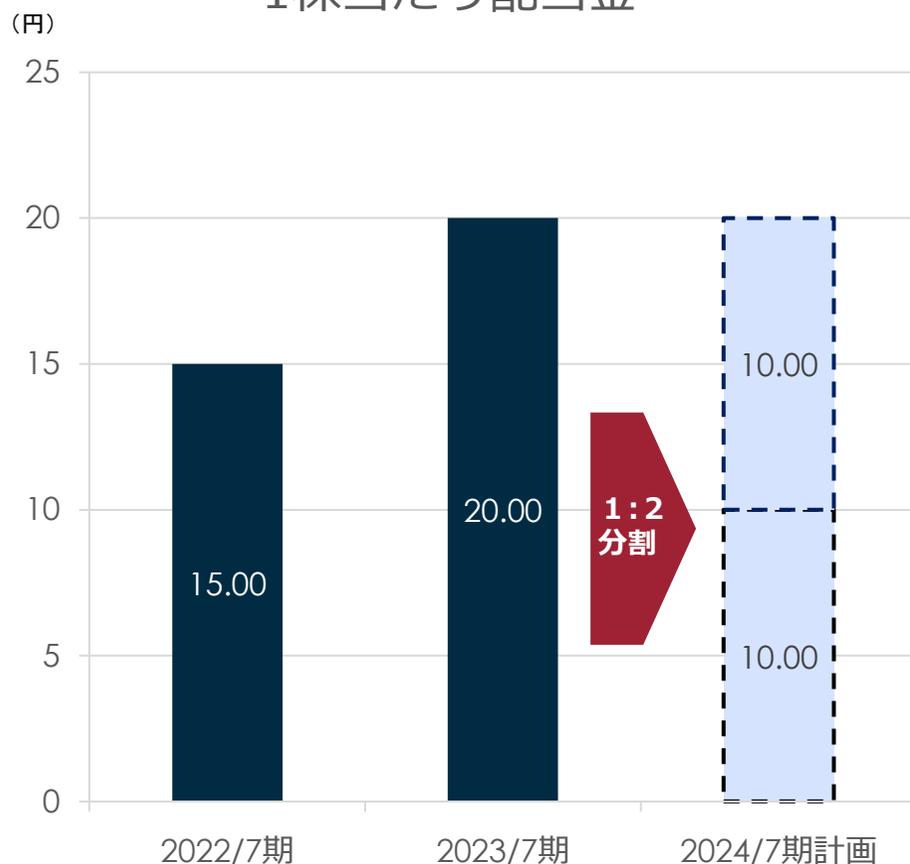
## 効力発生日

2023年8月1日

## 配当

## 配当方針

### 1株当たり配当金



※2022年7月期と2023年7月期は分割前の実際の配当金の額を記載しております。

経営環境の変化に備え、必要な内部留保を確保すると共に、株主の皆様への安定的かつ継続的な利益還元を経営の重要施策として業績を勘案しながら成果配分を行うことを基本方針としております。

### 23/7期配当について

2023年7月期の配当につきましては、**1株当たり20円**の配当といたしました。

### 24/7期配当予想について

2024年7月期の配当につきましては、**1株当たり10円**を予定しています。

株式分割後も現行の株主優待制度の対象及び内容は維持。

実質的な**株主優待制度の拡充**となります。

※株式分割の効力発生日が2023年8月1日となることから、2023年7月末日現在（2023年10月下旬に贈呈予定）の株主様につきましては分割前の保有株式数を贈呈基準となります。

## 株主優待券(見本)



## 株主優待

保有株式数	継続保有期間1年未満	継続保有期間1年以上※
100株以上200株未満	4,000円分の株主優待券	5,000円分の株主優待券
200株以上300株未満	8,000円分の株主優待券	10,000円分の株主優待券
300株以上500株未満	12,000円分の株主優待券	15,000円分の株主優待券
500株以上1,000株未満	20,000円分の株主優待券	25,000円分の株主優待券
1,000株以上	40,000円分の株主優待券	50,000円分の株主優待券

※ 継続保有期間1年以上とは、7月末日及び1月末日の株主名簿に同一株主番号で100株以上の保有を連続3回以上記載された株主様といたします。

- 対象となる株主様
  - ✓ 毎年7月末現在の株主名簿に記載された当社株式100株（1単元）以上を保有される株主様を対象とさせていただきます。
- 株主優待券のご利用条件
  - ① 株主優待券は、「浜木綿」「四季亭」「桃李蹊」「中国食堂 はまゆう」全店でご飲食代金としてご利用いただけます。
  - ② 当社のお店のない地域にお住まいの方、またはご希望の方には、株主優待券と引き換えに、代替品をお送りさせていただく予定です。なお、詳細につきましては、今後、決まり次第お知らせいたします。
  - ③ 株主優待券のご利用期間は、株主優待券到着後、翌年10月末日までといたします。
  - ④ 株主優待券は、1枚1,000円となっており、お釣りは出ません。
  - ⑤ その他の割引券等との併用はできません。
- 贈呈の時期
  - ✓ 毎年10月に開催予定の当社定時株主総会終了後に送付する決議通知に同封することを予定しております。

- I. 決算の状況
  - II. 今期、来期のハイライト
  - III. 今後の展望
- 

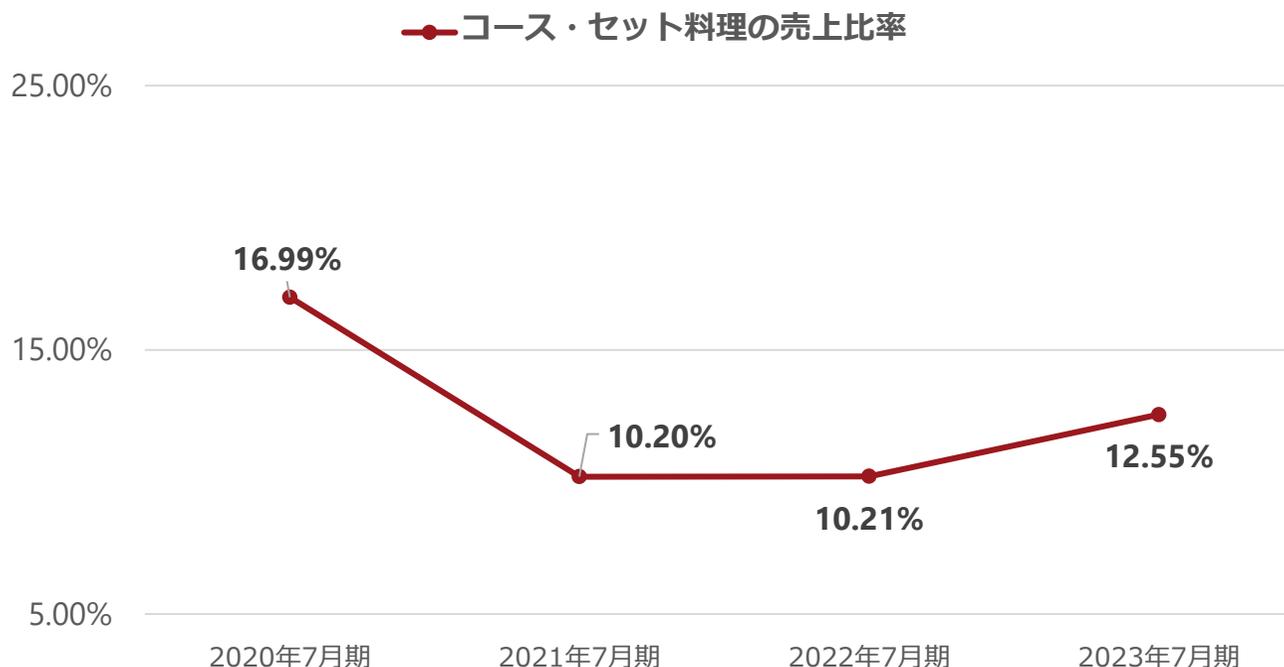


中国料理  
浜木綿  
はまゆら

## チェーン化を始めた1990年代から着実に業績を拡大



# 売上に占めるコース比率の推移



- ・新型コロナウイルス感染拡大により、2020年3月からコース・宴会関連需要が急激に低下。
- ・各自治体からの要請を受けて営業時間短縮を行った結果、2022年7月期の売上に占めるコースの比率は10.21%と宴会需要は低迷していたが、個人・少人数向けのセット料理の提案や宴会需要の回復により、12.55%と昨年比2.34ポイント改善。
- ・また、コース以外の売上高（単品料理等）については2019年7月期（新型コロナウイルス感染拡大前）に比べてほぼ同水準まで回復。

■ 供給能力を増強するとともに、浜木綿の出店と新しいマーケットへ新業態の出店を展開してゆくための展望

1. 新セントラルキッチンで供給能力を増強
2. 浜木綿の既存業態での出店
3. 10万人以下の商圈（7万人～10万人）の開拓に向けて

◇浜木綿の変革業態で10万人商圈の開拓をする。

4. その他の新業態

◇新業態「中国食堂はまゆう」ブランドで新しいマーケットに進出

◇今後も新しいマーケットへ向けた新業態開発に注力

客単価	出店タイプ	主にショッピングセンターやテナント中心	住宅地を控えた幹線道路・駅前	東京都心・繁華街 居酒屋系
1,000円前後	A社 B社 C社	A社 B社 C社	A社 B社 E社 F社 G社 H社	町中華等 I社 J社
2,000円前後	K社 L社 M社 N社 O社 P社	浜木綿 Q社	中国食堂 はまゆう	台湾料理系 R社 S社 T社 U社 V社
3,000円以上	デパート階上等	地方都市のみに出店 W社 X社 Y社 Z社	複数都市に出店 AB社 CD社 E F社 個店中華料理店等	

「中国食堂 はまゆう」ブランドで  
新たなマーケットに進出

# SDGsへの取り組み①



- 旬の食材を無駄なく使用
- 食育を広める
- 食料廃棄をなくす



- 性別や年齢・国籍を問わない公平な雇用
- 外国人労働者・社員の育成
- 地域コミュニティとの対話



- 責任ある食材の調達
- お料理を通じて、海の豊かさをまもる普及活動を



- 外国人の方にも当社の研修で職能をあげる。
- 社員の人に職業教育をしっかりと



- 帰宅困難者がいれば支援を
- 災害時には資材の提供を(食料・水等)



- 責任ある食材の調達
- 紙や木材も節約を
- お料理を通じて、山の豊かさを守る普及活動を



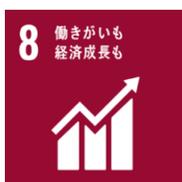
- 女性幹部の育成と登用
- 男性の育児休暇の取得
- 介護休暇の取得
- LGBTにも理解を



- 責任ある調達を
- サプライチェーンへの要請
- 資材の削減・再利用(プラ製資材の削減)
- (食用油の再利用)



- 外国人従事者の相談窓口を設ける
- 日本語習得を補助し、応援する
- 国籍を問わない公平な雇用



- 働き方改革
- 衛生管理と効率との両立を
- 適正な評価と報酬
- すべての社員や家族に健康診断を



- 資材の削減・再利用
- 電力エネルギーへの転換
- 施設の省エネルギー化の推進



- 社内研修の最後には必ずSDG'sの勉強
- サステナブル人材と思ふの実践

# SDGsへの取り組み②



## 主な活動状況

## SDGs (持続する開発目標)

### 外国人等多様性



- ・外国人社員の採用  
【採用実績】：  
中国、台湾、ネパール、ブータン、ベトナム等  
管理職への積極登用



### ジェンダー平等性



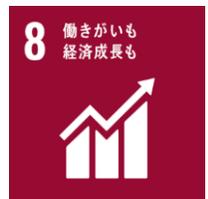
- ・中途採用 (パート社員から社員への登用)
- ・女性調理師の登用等、女性活躍の推進



### 社内研修制度



- ・職位ごとの社内研修制度充実化  
(調理師や店長、調理長の  
早期キャリア形成の実現)



### 株主優待制度による 寄付



- ・2022年7月期の株主優待制度の代替品で寄付を選択した方の寄付に当社としての金額を加えて「日本ユニセフ協会」に寄付を実施 (2023年5月)。



### フードロスへの取り 組み



- ・廃棄数量のチェックを日々実施し、定期的な臨店において改善対策を指導。



浜木綿の目指しているところ

四世代の「つどい」を  
日本中のどの町にも

※ 中国の幸福の概念『四世同堂』

浜木綿の目指しているところ

新時代の「町中華」を  
日本中のどの町にも

社名	株式会社浜木綿 英文表記：HAMAYUU CO.,LTD.
本社	愛知県名古屋市昭和区山手通三丁目13番地の1
代表者	代表取締役社長 林 永芳
設立	1968年2月
資本金	6億6,441万円
従業員 (2023年7月末日)	214名 (*381名) *臨時従業員の平均雇用人数
事業内容	外食事業

## ■ 経営理念

### 社 是

昨日より今日  
今日より  
より良い明日へ

### ミッション

新しい食文化を創造し  
来店されたすべてのお客様に  
豊かでハッピーな  
食事時間を提供します

### 営業基本方針

もう一品よりもう一度

**私たちはすべての法令を遵守したうえで、  
以下の行動指針を「浜木綿行動準則」として定め実践します。**

**1**

### お客様に

ご来店いただくすべてのお客様に安心してお食事をお楽しみいただけるよう、安全性を第一に考え、質の高いお料理とサービスを提供します。

**2**

### 働く人たちに

従業員一人ひとりの個性を尊重するとともに、敬意をもって認め合い、安全で働きやすい職場環境を創り、真摯な姿勢で仕事に取り組めます。

**3**

### お取引先様に

法令・社内基準に則り、透明・公正・自由な競争のもとに適正な取引を行い、取引先と共に発展することを目指します。

**4**

### 社会のために

事業を通じて社会に貢献し、地域社会にとってなくてはならない存在となるよう目指すとともに環境保護に努めます。

**5**

### 株主様に

適切な企業情報の開示・提供を行い、経営の透明性・公正性を確保し、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。

**6**

### そして、正義のために

反社会的勢力との取引を含めた一切の関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。

## 【ご注意事項】

本資料は、当社が企業情報等の提供のために作成したものであり、当社が発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手可能な情報あるいは想定できる市場動向などを前提としており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。